

堂

在京古高同窓会
会報
増刊号

〒133 東京都江戸川区
北小岩6-10-1
在京古高同窓会事務局
☎ 3672-7015
F A X 3672-1147
印刷：(株)ケーヨー



▲現役の学生諸君と楽しむ渋谷校長(左から3人目)、野村同窓会長(左端)

第一回 古川市内高校関東同窓会「新年の集い」 300人を集め盛大に開催される

会費納入のお願い

今回は、年会費未納の方だけに振替用紙が同封してあります。より活発な同窓会運営のため、納入下さるようお願い致します。既に納入した場合には行き違いですので、悪しからずご容赦下さい。

古川市内の四校の卒業生が一堂に会する記念すべき第一回目の「古川市内高校関東同窓会「新年の集い」が一月二十二日、東京高田馬場千代田平安閣で開かれた。計三百十一人の出席者で会場は超満員。懐かしい顔を見つけての歓声と共に、近況や思い出話に花が咲き、四高校の校歌が郷里にとどけとばかりにこぼれました。

出席人数は古川高百二十二人、古女高六十二人、古工高九十六人、古商高三十一人。古川高からは現役の大学生七人も参加した。

このうち来賓として、古川高から渋谷侯夫校長、野村喜太郎同窓会会長ら四人、古女高から大庭保子同窓会仙台支部副支部長、古工高から南部重信校長、村田恭一同窓会副会長、古商高から石田利之助校長、綱田仁同窓会会長が駆けつけた。

四高校合同の関東同窓会は初めて。

この企画は、在京古高同窓会が平成四年同窓の総会から古女高、古工高、古商高の同窓会役員数名を招待、四高校の交流が深まる中で、合同新年会の話が持ち上がり実現したもので、在京古高同窓会としても、毎年の新年会に対し「マンネリぎみ」との声も出ていただけに、前向きに検討、この日の開催にこぎ着けた。集いは、大崎タイムス社長の米城清司さん(古川高同窓生)の講演で開会した。米城さんは、「大崎の現況と未来」と題し、大崎地方の農業や商工業、また古川市の中核都市としての事業などを紹介。郷里の発展

変り、うなずきながら耳をかたむける出席者も多かった。

この後、懇親会に会場を移し、まず発起人を代表して古工高の松下巖さんが、開催にいたる経緯を含めて開会のあいさつ。各来賓の皆様が母校や同窓会の現状を紹介し、集い開催への祝意を述べた。

乾杯の音頭は宮城県東京事務所所長の石川繁さんを中心に古川高永澤幸七さんと古女高の小山玲子さん。三百十一人のグラスが高らかに上げられると会場の雰囲気も一気に高まった。

ビールやジュースを注ぎ合う手と手の乱舞。会場のいたる所に話の輪ができた。米城さんの講演をもとにしたながら、変わりつつある郷里への思いや東京での暮らし、戦後最悪の冷害に見舞われたコメのでき具合など、話題は様々。「東京ことば」にいつしか故郷なまりもまじり、笑いと歓声が交錯した。また古女高で教鞭をとったことのある古川高卒業生と教え子たちが再会する場面もあった。

アトラクションでは獅子舞、「新宿育ち」がヒットした大木英夫さん・津山洋子さんの歌謡ショウや古商高出身の民謡歌手の方も駆けつけて盛沢山の内容。大いに盛りあがった後は、四高校の校歌がそれぞれ各校の卒業生によって合唱された。懐かしい校歌の歌声には思わず力が入り、肩を組んで歌うグループも。エールの交換では、各高卒業生が次々と舞台上上がり、母校への思いをぶつけ合った。

予定時間を過ぎては話も尽きなかったが、春田紘輔さん(古川高同窓生)が中締めあいさつ。古女高同窓会東京支部長の鈴木富子さんが再会を誓う閉会の辞を述べて、全国初の古川市内四高校合同新年会は盛会のうちに幕を閉じた。

昭50卒 岡崎裕哉記

総会日程決まる

平成七年度の在京古高同窓会総会は七月九日(土)に決定いたしました。昨年に続き二回目の夏季開催となる今回は、現役の大学生が二十数名ほど参加を予定しております。先輩として後輩を激励するとともに、会を大いに盛り上げていただく意味でも多数のご参加を期待しております。

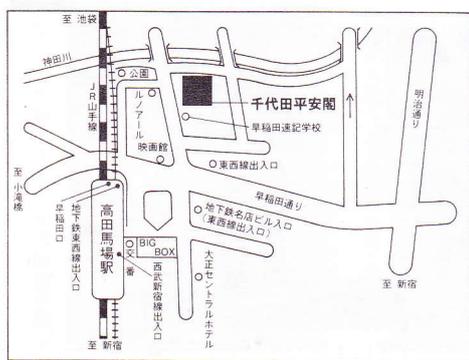
▼日時 平成六年七月九日(土曜日)
午後二時～五時三十分

▼場所 高田馬場「千代田平安閣」
新宿区高田馬場二一六―十
電話三二〇七―五一六一

JR山手線または営団地下鉄東西線、高田馬場駅下車、徒歩二分

▼講演 昭20卒高橋昭典さん(予定)

▼その他



講演内容 「郷土大崎の現況報告」

大崎タイムス社長
米城清司

昨年ひき続き、中央で活躍されている古川市内四高校の卒業生の前で郷土の話が出来るということは大変光栄であります。また、郷土との繋ぎ役をさせていただくという事は大変意義のあることでもあります。



講演する米城清司さん

我が郷土、大崎は素晴らしい可能性を秘めた所であることは、前回とくとお話いたしました。現在この程度でいることこそ「おかしい？」と思われねばなりません。豊饒な平野、交通の要衝等と。現に十月の人口統計では、古川市は千二百五十人の増加で六万七千二百四十人。これは仙台市の八千人増を除けば、石巻と気仙沼は微減、大崎五郡も全て減少と、県下第三位の街として大健闘しております。しかし、これはある近隣の首長が言っている事だが「古川市ほどこういった特徴がない。最近広くなったことは事実だが」と確かに特徴といえば「こめ」となるが「こめ」には形がないので、街づくりには結構むずかしい素材のような気がする。時代も変わって来たわけで、遅ればせながらいよいよこれから本格的な開発に着手ということになるでしょう。

平成五年の大崎を見ると、政治、経済、農業と大変むずかしい年でした。

二月、郷土の誇り本間知事の再選。いよいよこれから。拠点都市の指定は先輩都市、石巻に行ったが、次回はぜひ：（平成六年四月二次指定として組上に登った）と。しかし、九月例の事件が起き、大崎民「信じられない」の連発。十一月浅野知事誕生（45歳、投票率39.2%）、暗雲が大崎を覆いつくしたことは間違いない。さて、農業は百年来の冷夏、九月には不稔81%（古川）と発表。例えば、古川農協米の集荷量を見ると三万七千俵（過去最高は50万俵、平均30万俵）と十の一の量であった。全ての経済基盤で、米の量は藩制時代からの伝統という訳ではないが、街の不景気には関係が深いということ、皆様もその出身故理解出来るでしょう。「今年は儉約」との合言葉も出ているようだ。もちろん現在では兼業農家が80%ということで、米だけに頼っているわけではない。

しかし、地域での勤務先もバブルの崩壊後は、不況で深刻で大きな問題が起きてきている。十二月には細川内閣により、米の部分開放が決議された。これは今まで何度となく「囁かれた」ことなので、意外と地元では静かだったような気がする。次の選挙では気を揉む議員さんもあると思うが。東京では、大崎農協青年部の四十七人が首相官邸（吉良邸）討入りの様子がテレビ報道され、皆様も興味を持って見られたことでしょうか。感想はいかがでしたか？

とは云え、これは世の流れと思えば今後、農業の大型化は進められると思う。古川の四農協合併の調査研究等も決議された。また、数々の

出した県農業試験所も東大崎地区に移転が内定（200ha）、パイオ時代対応の本格的機能を発揮する事と思う。地域経済で見逃せないことは四月アルプス電気の千三百名希望退職である。同社は古川市に主力工場進出以来、古川市のモデル大企業として、全ての市民生活のよりどころになって来た。数年前に片岡社長は古川市の名誉市民にも推挙された。兼業農家の多い大崎ではこの様な不況の影響は「ずっしり」と重い。他に報告することとして（平成五年分）中核保健福祉施設が三本木町に決定（100ha）。古川市江合に吉野作造記念館着工、（平成七年一月二十九日、作造誕生日に開館予定10億）。古川市・化粧沼に「古代の里」がオープン（50ha、堅穴住居八棟・22億）。宮崎町に陶芸の里（温泉施設・民族資料館コテージ、風呂10億）。小野田町にやぐらい薬師の湯完成（10億円）大浴場、サウナ、さらにホテル併設の予定。古川市・七日町のオープンモール化（2億・十年来のアーケードを廃止して稲穂の街路灯を設置、緒絶川のイメージ化等）。故郷も少しずつ面白くなって来ています。東京も大変な時代と聞きおよびに当たり晩年は故郷でと計画を立ててはいるかがでしょうか。まだまだ土地も買えるようですので。最後に皆様に紹介するのは、現在品切れを起こしている「豊饒平野・伊藤藤卓二著「大崎タイムス社刊」の復刻版を今年中に再刊することになりました。皆様ぜひ、中世の大崎、幻の大崎大いなる発展の可能性を秘めた大崎に興味ある方はよろしくお願ひ申し上げます。

合同新年会ケツチI



▲元気のよかった現役の大学生と浅野さん(中央)



▲若さが目立った古工の参加者、中央の女性が女子1期生の本田加代子さん



▲講演を熱心に聞き入る来賓の皆さん



「新宿育ち」のヒットでおなじみの歌手津山洋子・大木英夫さん▲

稀にみる好企画、ぜひ継続を！

古川高等学校校長 渋谷 候夫

春遅い東北にもようやく梅だよりが届く季節になり、母校でも第46回卒業式を終え、340名の新同窓生を送り出すことができました。現在は私立大中心に続々と合格発表がもたらされ、年度末の慌ただしさの中にも喜びとともにある種の活気が溢れている毎日です。



先日は在京の古川市内四校合同同窓会新年祝賀会にお招きをいただき、ありがとうございます。予想をはるかに越える盛会と、なごやかな雰囲気は圧倒され感激して参りました。

同じ母校を持つもの同志が日頃疎になりがちな絆を確かなものにし、旧交を温め直すことで明日への活力を生み出すのが同窓会の大きな目的でありました。今回の試みは「同じ故郷を持つ者同志」までその枠を広げたことによるわけで、特に故郷を遠くはなれている方々にとっては有意義な会であったのではないのでしょうか。事実、卒業以来の再会を懐かしむ光景が会場のあちこちでみられ、小生も胸を熱くしました。出席された方々も各々に満足した一刻をすごされたものと思います。

各校事務局、幹事の苦労は大変なものがあるかとは思いますが、全国でも稀にみる好企画母校との絆に加え故郷「大崎」との新たな絆を確とすするためにも、ぜひ継続して下さるようご尽力願いたいものであります。

「新春の集いのご案内をいただいで」

古川商業高等学校校長 石田利之助



本年一月、古川市内四高校同窓会の初めての合同新年会にご案内をいただき、出席させていただきました。

会場には、古商高同窓生の皆さんはもろろんのこと、四校の同窓生の方が多数参加され、盛会のうちに旧交を温めているご様子を拝見し、何とも表現したい感動を覚えました。

関東一円に在住する四校の卒業生が一堂に会する、このような集いを実現させて下さったことに感激しますと共に、その任に当たられた役員の方々に深く敬意を表しお礼申し上げます。私事になりますが、旧制古中、古高校時代の諸先輩や同級生の方々にも四十余年ぶりにお目にかかり、本当に懐かしさで一杯でした。集い終了後は同級生の春田紘輔、田中朝一、今野健、相澤清、高橋喜三夫の各氏に誘われ、各氏の近況や高校時代の話で盛り上がり最終列車の時間まで楽しく過ごさせていただきました。これが中・高と六年間一緒だった同級生の良きなのかも知れません。皆さんに感謝いたします。

なお、「集い」の際、会場で古川商業高校の紹介をさせていただきましたが、紙面を借りまして多少付け加えていただきます。本校は昭和三十九年に創立、今年創立四十周年を迎えました。この間私学

特有のいろいろ困難な事もありましたが、ここ六、七年を振り返ってみますと学校の施設、設備の整備が大

幅に充実しました。それと共に教育面では部活動で女子バレーが全国大会五度の優勝。自転車部が平成五年三月全国高校選抜ロードレース大会で個人団体、総合優勝。スキー部が全国高校スキー競技大会、国体で上位入賞。英語スピーチコンテスト全国大会出場やブラスバンド部の県大会準優勝等々の成果を得。就職面では二千社以上からの求人。進学面では今春普通科卒業生の中から現役で東北大二名、岩手大、福島大、早稲田、明治など東京六大学および地元東北学院大などへの合格者を多数出すまでになりました。これまでの学校運営の努力がようやく実を結んだとの感慨を深くしております。

なお、三月下旬の代々木体育館での全国高校バレーボール大会には皆様の絶大な応援をいただきありがとうございます。残念ながら皆様のご期待にそえず、三回戦で敗退してしまいましたが、今後ともご支援ご声援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

初めのご案内合同新年会にお招きをいただき、先ずお礼申し上げます。



会場には、古高をはじめ商業高、工業高、女子高の同窓生がギッシリで三百人位と思いましたが、よくも

「在京の合同同窓会に出席して」

古川工業高同窓会副会長 村田恭一



厳寒の季節一月末に、在京の古川市内四校の合同新年会にご招待いただき出席いたしました。春はまだ遠かったのですが少し暖かい日でした。高田馬場駅付近は昔日のイメージはなく、高層ビルが立ち並んでおりました。私は日本建築士連合会の監事になっており、前日が監査日だったので丁度上京しており、日帰りのところ一泊して出席することにしました。この会については、以前から幹事役の松下さんより「出席してくれ」との誘いがあり、同窓会長からも出席の要請がありましたので、会長代理として南部校長先生と一緒に参加しました。会場に入ると懐かしい

集まったものだと驚きました。地方の各支部では、総会あるいは新年会でも数十人集まれば良い方で、さすが関東東京だと感心いたしました。大崎を遠く離れて居れば居るほど母校を想い、同窓生と会う事に意義を見つけ楽しんでしているものと思われま。

古高は平成九年に百周年を迎えますので、これに關した事業計画や進捗状況の報告が私の役目ですので、皆さんとの歓談の中でお話し上げましたが先輩、後輩の方々から力強い激励をいただき責任の重さを痛感しました。工業高同窓会の村田副会長さん、商

顔の先輩や後輩の方が多数おいでになり、しばし話に夢中になりました。ご講演をいただいた大崎

タイムス社の米城社長のお話は、最新の古川情報で皆さん大変興味深くお聞きになっておられた様子。やはり古川・大崎地方を離れ、長い間東京・関東地区で夫々の分野で活躍されている皆様です。尤もだなぁと感じ入りました。米城さんは、さすがにマスコミの代表として話題も豊富で時折ジョークを交え、笑わせながらの講演で大変感心いたしました。講演が終わって、女優の大森暁美さんから米城さんに花束の贈呈がありました。初めてお目にかかり感激いたしました。

この会の開催にあたっては、わが同窓会会員が幹事の代表、司会の代表をつとめたり、大変な活躍を見て誇りに思いました。どうぞこれからも積極的な活動をお願いしたいものと感じた次第です。その事を卒業式前日の「卒業生を送る会」に出席し、祝辞の中でお話ししました。就職あるいは進学する卒業生達が自信を持って果立っていく事を念じながら。

業高の綱田会長さんや各校の校長先生ともお話ができ、コップを片手に各校の同窓生の方々や歓談しながら忙しく会場を回ったので、折角のアトラクション等は残念ながら見ることができませんでした。

若手では、現役の大学生諸君が数人ほど出席して、元氣よく自己紹介しておりましたが、将来の大成に期待いたします。

伊藤会長さんをはじめ片平事務局長さんにはご苦勞様ですが、これを期に合同の新年会を継続して下さる様お願いいたします。

合同新年会に参加した皆さんの感想

この火を消さずに続けよう

古川商業高同窓会

関東支部長 上遠野 孝一

一昨年、在京古高同窓会佐藤公哉氏より総会出席のお誘いがあり、勉強のつもりで参加。片平事務局長を紹介され、いろいろご教授を受けている中で今回の市内四校合同新年会を開催しようという事になり実現した訳であるが当初予想した人員以上に集まり、大盛会であったと思います。

共に故郷を同じくする者達が、この種のがなければお合できる機会もないのではないかと思う時、世話人の一人として何ら事故もなくスムーズに運営でき、次回につながりそうぞうでホッとしています。

ご出席の皆さんには、思いがけない人との出会いや忘れていた青春時代にタイムスリップしたりと、良い思い出が出来たのではないのでしょうか。

これからも年に一度皆様のご協力のものと、この火を消すことなく続けて行きたいと願っています。

心地好いひととき

古川女子高昭26年卒 小山 玲子

あの街角、あの店、あの線路などと話し出せばお互いの共通の記憶が心地好くほぐれてくるついででした。

「明日、炉辺に投げ入れられんとする草花も美しく咲けり。彼らは不朽を時間的に求めずして、その生を尽くすことに求めたり(マルクス・アウレリウス)」という言葉を、十七歳の日の私に教えて下さった、大先輩の先生にお目にかかれたのも大変嬉しかったです。

同年代の参加者が少なく残念

古川工業高平4年卒 本田 加代子

第一回目の合同新年会に出席し、様々な分野で活躍している方々と出会い楽しむことができました。代表者の方々のお話も大変素晴らしいものでしたが、まだ上京して間もない私にとっては、気軽に話しかけて下さった方々の方々まじりの会話も心をなごませてくれました。ただ一つ残念だったのは、同世代からの出席者が少なかったことです。

来年度は、もっと声をかけあい今年以上に盛り上がることを期待いたします。

もっと各校のカラーを出そう

古川工業高昭51年卒 佐々木 次郎

古川工業高関東支部全体の同窓会としては今回が初めてでもあり、予想がつかず心配でしたが、100名近い出席者があったホッとしました。

懇親会は、ダイナミックな雰囲気ですれとなく聞こえてくる宮城弁は懐かしく、やさしく、安心できたひとときでした。次回には、各校のカラーがもっと出てくるよう、そして若い年代の参加がもっと増えるよう願う。

日曜日にやればもっと増えるかも

古川工業高平3年卒 千葉 和也

1月22日記念すべき第一回目の古川市内高校の合同同窓会開催され、各校の卒業生の方々が大勢参加されて、とても賑やかで心地よく感じました。

しかし、自分たちと同年代の参加者は、土曜日なので会社などがあるせいか、集まりがあまりよくありませんでした。開催日が日曜日だったらもっと集まっていたのでは?と思いつつ次回に期待している今日この頃。

合同新年会

スケッチII



女優の大森暁美さんと念願のツウショット
各校代表の司会団



豪快な春田さんの一本締め



四高校の発起人を代表して挨拶する古工代表松下巖さん



同じテーブルで楽しむ皆さん

合同新年会
スケッチ
チ
Ⅲ



古川工業高校長 南部重信さん



古女高同窓会仙台北支部副支部長の
大庭保子さん

来賓の挨拶



古川商業高同窓会会長綱田仁さん



在仙古高同窓会副会長 三浦良さん



乾杯の音頭をとる宮城県東京事務所
所長の石川繁さん(中央)と古高代表
永沢幸七・古女高代表小山玲子さん



「天使の歌声？」―校歌を熱唱する
白梅の乙女たち



古商高出身の民謡歌手吉村君男さん



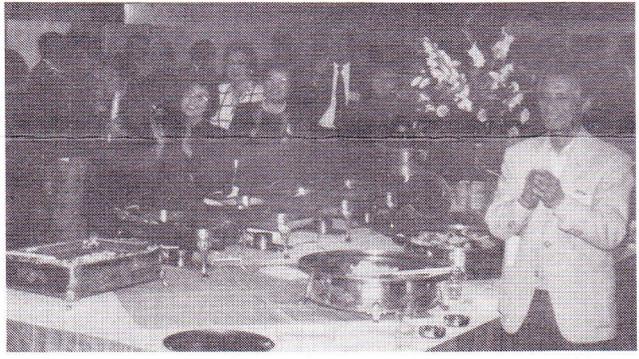
古高若手?と現役の学生たち



主催者を代表して挨拶する在京古高
同窓会 伊藤会長



平成になってからの卒業生も多数参
加した古川工業高校の若さあふれる
面々



舞台でのアトラクションに盛り上がる
会場内



▲応援団調で自己紹介する大学生達



校歌を歌う古川商業高校の皆さん



閉会の挨拶をする古女高同窓会関東
支部長 鈴木富子さん

第一回 古川市内高校関東同窓会「新年の集い」出席者一覧

古川高等学校

昭和5年 永澤幸七	昭和20年 熊高前横 谷橋田山 虎昭浩榮 夫典郎治 五郎	昭和28年 金高藤渡 子橋本辺 康志夫雄 範隆道	昭和32年 石大加加木草今 川泉藤藤戸刘野藤藤梨橋沼田野神 謙昭秀次順公満利清三利七良	昭和37年 佐千吉 藤葉田幸	昭和47年 太田明 小畑正進芳
昭和8年 及大川場	昭和22年 竹中藤浩 朗昇梯	昭和29年 川野藤藤橋浦坂富 春賢清清啓	昭和33年 木藤口光重正	昭和41年 小菊波二渡 輝務量明	昭和46年 細川三男
昭和9年 伊多藤藤浦	昭和23年 佐菅坂 金吾	昭和30年 脇脇喜代志明	昭和34年 戸野志貞	昭和44年 伊沢高細 正健修	昭和50年 岡崎裕哉
昭和10年 千葉憲一	昭和25年 高橋金吾	昭和31年 相石石奥片熊鈴秋森	昭和35年 岩崎光文	昭和45年 岩島藤	昭和51年 荒関研吾
昭和12年 上田力正男 大佐藤有八信夫	昭和26年 遠藤藤藤原 清健勝夫一一輔		昭和36年 佐藤文彦		昭和53年 浅野勝弘
昭和14年 岩加城藤有八信夫	昭和27年 相今佐高田種春				昭和58年 浅内野修次夫 現役大学生・・・7名
昭和15年 小山山豊					古川高等学校校長 侯夫会会長
昭和16年 伊藤宗一郎					古川高等学校同窓会副会長 喜太郎
昭和17年 高橋淳夫					在仙古高同窓会副会長 三浦良
昭和18年 渡辺三男					宮城県東京事務所所長 石川繁 計122名

古川女子高等学校

昭和3年 佐藤タケヨ	伊小佐田田鈴木橋 内立名橋橋隅島	万城目良子 野和たか子 浅片土有子	昭和35年 板橋木田榮禎宏	昭和41年 大保一 佐藤光典
昭和15年 宮尚子	昭和29年 岩嶺椎高豊松	昭和31年 阿村部田	昭和36年 荒中鈴木 島崎つ子 石松浦和子	昭和42年 佐高山藤橋田
昭和23年 阿部規登代志子 阿谷部玲子		昭和33年 阿村部田	昭和37年 島崎つ子 石松浦和子	昭和44年 横山まゆみ 同窓会支部副支部長 仙庭保子 計62名
昭和26年 上野節信幸子 小工藤元久子 小石川千枝子		昭和34年 植宮渡高	昭和38年 中村滋子	

古川工業高等学校

昭和18年 佐藤良七	佐藤鈴木高橋野田 橋野岸田辺 橋野田木木橋 橋野藤	昭和34年 保山宏夫 秋寺京昭広	昭和39年 木村悦治彦一 鈴木健健京達雄	昭和44年 川崎登木田川哲清繁	平成1年 佐々木義行
昭和22年 二階堂伸	昭和30年 佐鈴高橋野藤	昭和35年 大佐須菅鈴村	昭和40年 伊東東橋上澤	昭和45年 日向邦男	平成2年 菊地地藤井谷浩康義義
昭和23年 高橋貞雄	昭和31年 佐鈴高橋野藤	昭和36年 伊藤伊遠工早	昭和41年 高最柳野井原橋坂	昭和46年 星晴光	平成3年 小菅林原宏樹博
昭和25年 齊藤春勝男志	昭和32年 場利徹	昭和37年 上野俊夫	昭和42年 野井原橋坂	昭和47年 石堂信次	平成4年 小野寺藤藤和
昭和26年 北村幹郎	昭和33年 木森塚山	昭和38年 氏佐塩富最	昭和43年 門後高武	昭和50年 千梁葉川浩雅	平成5年 本田加代子 古川工業高等学校校長 南重信 古川工業同窓会副会長 村田恭一 計96名

古川商業高等学校

昭和31年 三塚孝司	昭和36年 泉嶋本誠四寿君	昭和38年 野藤野葉藤藤	昭和41年 藤清子	昭和51年 今野哲朗
昭和32年 林裕司	昭和37年 伊菅鈴芳	昭和39年 遠藤藤藤	昭和42年 瀬戸茂子	昭和59年 鈴木利明
昭和33年 大上遠野孝一		昭和40年 石川信行	昭和44年 田田邦則	古川商業高等学校校長 石田利之助
昭和34年 野鹿忍			昭和47年 野智夫	古川商業高等学校同窓会会長 網田仁 計31名
昭和35年 岩淵貞夫			昭和48年 松川力	



(敬称略)